巡回比較試験の注意事項

I. 校正の手順

校正は、以下の手順によって実施してください。

① 仲介器の取扱

・仲介器への接続は、N 型コネクタ専用トルクレンチを使用して 1.36 N-m (12lab-in) で締め付けてください。
・パワーセンサは温度に敏感であるため、接続時の手の熱等の影響に注意してください。
・パワーメータの基準校正係数 (Ref CF) は、デフォルトの 100%であることを確認してください。
・校正前には必ず Zero 調整及び自己 Cal を行ってください。
・入力電力は、 1mW (0 dBm) で校正してください。

② 温度ならし

・校正を実施する部屋に充分な時間放置して、温度ならしを実施してください。
・基本的には、金曜日受け取った後、月曜日まで校正を実施する部屋に放置してください。
また、環境条件をモニターできる設備を用意してください。

③ エージング

・結露等の発生がないことを確認したうえで、電源を投入してください。
・仲介器は電源を投入し、十分なヒートラン (30 分以上) をしてください。

④ 校正方法

・参加企業・機関の通常行っている校正方法にて実施してください。
・仲介器のパワーメータとパワーセンサを接続した状態で、校正係数を結果としてご報告をお願いいたします。

⑤ 整合用 Pad の使用

整合用 Pad の使用は、参加企業・機関の通常行っている校正方法に従ってください。

⑥ 測定回数

測定回数は、参加企業・機関の定める基準によりますが、できるだけ 3 回 ～ 10 回の範囲で実施してください。

II. 校正条件

参照機関の校正条件は、以下の通りです。

・温度　　: 23　± 1℃
・湿度　　: 50　± 20%
・測定電力 : 1mW (0 dBm)
・基準校正係数 (Ref　CF)　100%

また、設定温度、制御温度範囲は参加企業・機関が保持している設備の条件で構いませんが、できるだけ次の環境条件以上で校正することを推奨いたします。

推奨環境条件　温度 : 23 ℃ ± 2 ℃、湿度 : 50 % ± 20 %

III.　その他の注意事項

①仲介器に過大な高周波電力を入力しないよう注意してください。

②仲介器のコネクタはN形とします。
アダプタを使用して他のコネクタに変換した場合はアダプタ挿入による不確かさを評価してください。

③仲介器（接続部付属パッド）のコネクタに異物混入が無いことを確認し、校正を実施してください。
異物がある場合はエアーで吹き飛ばして除去して下さい。

④ピンの深さがプラスとなるコネクタに仲介器を接続しないでください。

⑤仲介器のコネクタは適正なトルク 1.36 N-m（12lab-in）で締め付けてください。

⑥コネクタの中心導体は、変形を防ぐため横から過大な力を加えないようにしてください。

⑦可能であれば、測定直前に周波数カウンタで入力する高周波信号の周波数を測定し、記録してください。

⑧測定中の温度、湿度の実測値または温度管理範囲を記録してください。

⑨その他、測定中、搬送中に問題が生じたときは、速やかに事務局及び担当者までご連絡ください。

⑩今回の試験に当たりましては、仲介器は借用品です。
当該仲介器は、動産保険に加入していますが、破損理由に拠っては、その補償に関しては、個社対応をお願いすることがありますので予めご了承下さい。

以上